

# 稲作だより

## ～第7号 穂肥編～

### 適期適量の穂肥で高品質米を！！

6月28日時点の調査結果では、茎数は平年より多いものの、葉色は平年並みに落ち着いてきていました。移植の遅い圃場でも概ね目標茎数が確保されています。



表1 6月28日現在の生育経過 (作柄診断圃、農業技術普及課調べ)

品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
はえぬき (尾花沢市尾花沢)	本年	38.9	625	9.1	41.6
	前年	36.6	412	8.5	38.0
	平年	39.8	501	8.7	41.2
	平年比	98	125	+0.4	+0.4
つや姫 (村山市河島)	本年	52.5	710	9.5	44.6
	前年	43.1	430	8.3	41.1
	平年	41.4	511	8.5	42.6
	平年比	127	139	+1.0	+2.0
雪若丸 (東根市蟹沢)	本年	42.1	877	9.5	44.2
	前年	41.3	642	9.3	45.9
	平年	38.8	676	9.4	45.9
	平年比	110	130	+0.1	-1.7

## 1 生育に合わせた中干しで、穂肥のできるイネに仕上げましょう

- まだ中干しに入っていない圃場は直ちに作溝・中干しを実施しましょう。
- 圃場に小ヒビが入る程度を基本に生育量に合わせて中干し強度を調整しましょう。

表2 生育量(茎数×草丈)と中干しの程度

生育量大きい(茎数が過剰) 葉色が濃い		強めの中干し (小ヒビが入ってから、更に数日干す)
生育量小さい 葉色が薄い		弱めの中干し (ヒビが入らない程度)

※表面の土が白く乾くような中干しはやりすぎです。

### 【中干し後の水管理】

- 中干し終了直後は、走り水を行い、足跡に水がある程度の飽水管理を行いましょう。その後、間断かん水に移行(2日湛水・2日落水、又は2日湛水・3日落水)します。
- 地表付近の根の生育を向上させるため、出穂まで間断かんがいを続けましょう。この根が穂肥を効率的に吸収し、登熟を高めます。
- 穂肥施用時は水尻を閉じて、浅水状態(水深3cm程度)で散布しましょう。
- 大切な用水ですので土地改良区等の情報を基に適期・適正に灌水しましょう。

◎熱中症・農作業事故に注意！

水分補給と休養をこまめに取しましょう。

## 2 品種別の生育診断と追肥量・時期の目安

《 出穂前日数の判断の仕方》

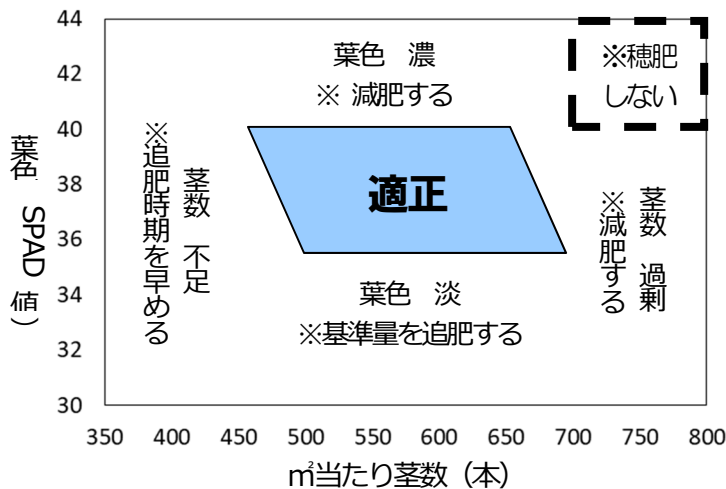
幼穂の長さ：1mm程度 → 25日前頃

2~3mm → 20日前頃

### ①はえぬき

○7月10日の生育（茎数と葉色）から図1を参考に追肥時期・量を決定します。

**葉色(SPAD)が40以上の場合は、穂肥の窒素量は1.0kg/10aに減らしましょう。**



〈はえぬきの穂肥基準〉

追肥窒素量 2.0kg/10a、出穂前25日

表3 7月10日頃の生育診断と対応技術(はえぬき)

m <sup>2</sup> 当り茎数 (本/m <sup>2</sup> )	株当り茎数(本)	
	70株植 (/坪)	60株植 (/坪)
700本	33本	38本
450本	21本	25本

図1 7月10日の茎数・葉色と穂肥対応(はえぬき)

### ②つや姫、雪若丸

○栽培マニュアル、「つや姫だより」、「雪若丸だより」を参照してください。

### ③各品種の穂肥の時期と施用量の目安(平坦)

品種	N施肥量 (kg/10a)	施肥時期 出穂前日数	追肥時の葉色		出穂期(平坦) 予測	穂肥適期(平坦) 予測
			葉色板	SPAD		
ヒメノモチ	2.0以内	25日	5.0	40	7/30 ~ 8/1	7/5 ~ 7/7
あきたこまち (中山間)	2.0	20日	4.8	38	8/2 ~ 8/4	7/13 ~ 7/15
山形95号	2.0	25日	4.9	39	8/1 ~ 8/3	7/7 ~ 7/9
ひとめぼれ	1.5	20日	4.7	37	8/1 ~ 8/3	7/12 ~ 7/14
はえぬき	1.0~2.0	25日	4.8	37	8/2 ~ 8/4	7/8 ~ 7/10
雪若丸	1.5以内	25日	5.1	41	8/2 ~ 8/4	7/8 ~ 7/10
つや姫	1.0~1.5	30日	4.7	37	8/7 ~ 8/9	7/8 ~ 7/10

※ 中山間の穂肥適期は平坦の2~3日後になります。

## 3 斑点米カメムシ類注意報発令中！！

- ・7月2日に斑点米カメムシ類の注意報が発表されました。イネ科雑草が繁茂している畦畔・農道で発生が多いため、地域ぐるみで草刈りを徹底し、斑点米カメムシ類の生息密度を下げましょう。
- ・水田内のノビエ、イヌホタルイ等にも斑点米カメムシ類が飛来しやすいので、水田内に残った雑草対策も必要です。
- ・梅雨時期は葉いもちが感染しやすい時期です。圃場をよく見回り、早期発見・防除に努めましょう。